

令和7年度 学校評価(保護者・全体)

所属学部(保護者・全体) n= 66 / 432 15.3
 回答者数 保護者数 %

◎とても思う ○少し思う ▲あまり思わない ×全く思わない

領域	No.	項目	評価内容	◎	○	▲	×	無回答	回答者数 (◎○良好 ▲×要改善)		%表示 (◎○良好 ▲×要改善)		わからない 無回答	帯グラフ (良好: ■ 要改善: ■ 無回答: ■)
									◎○良好	▲×要改善	◎○良好	▲×要改善		
学校運営	1	学校運営	学校は、教育方針や教育活動及び必要な情報をわかりやすく伝えている。	46	16	4	0	0	62	4	94	6	0	
	2	人権意識	学校は、子どもの人権を尊重(体罰の根絶等を含む)し大切にしている。	57	7	1	0	1	64	1	97	2	2	
	3	働き方改革	学校は、働き方改革に向けて取り組んでいる。	35	27	1	1	2	62	2	94	3	3	
教育・活動・進路・学習指導	4	教育活動	お子さんは、学校生活を楽しんでいる。充実した学校生活を送っている。	49	15	2	0	0	64	2	97	3	0	
	5	学習指導	先生は、子どもたちをよく理解し、指導を行っている。	54	9	3	0	0	63	3	95	5	0	
	6	ICT活用	先生は、ICT(iPadやパソコン・電子黒板等)の活用等を通じた授業を行っている。	31	27	5	0	3	58	5	88	8	5	
	7	進路指導	学校は、子どもたちの個々の将来を見据えた、望ましい進路選択のための情報を提供し、保護者と連携しながら進路指導を行っている。	45	17	3	0	1	62	3	94	5	2	
生徒指導相談	8	教育相談	学校は、お子さんに関する相談について適切に対応している。	51	15	0	0	0	66	0	100	0	0	
	9	生徒指導	学校(先生)は、いじめ防止に向け、児童生徒との信頼関係作りや安心安全な環境づくりに努めている。	48	17	0	0	1	65	0	98	0	2	
保護者連携	10	教育的ニーズ	学校は、本人・保護者の教育的ニーズや願いを取り入れた教育を行っている。	51	12	2	0	1	63	2	95	3	2	
	11	PTA活動	PTA活動は、連携・周知に努めながら取り組まれている。	46	15	2	1	2	61	3	92	5	3	
健康・安全	12	健康教育	学校は、子どもたちの心身の健康づくりに努めている。	52	14	0	0	0	66	0	100	0	0	
	13	安全教育	学校は、子どもたちの安全や事故防止に努めている。	55	10	0	1	0	65	1	98	2	0	

所属学部(保護者 全体)

考 察	
80%以上	<p>①全ての項目で80%以上の良好な評価が得られた。特にNo8「教育相談」及びNo12「健康教育」については100%の評価となり、生徒支援部を中心とした取組の充実が結果として表れたと考察できる。また、No12「健康教育」については昨年度に続き良好な評価を得る結果となり、本校の教育目標「健康な体と明るい心を育てる」の実践が保護者に伝わり、理解を得られたと考察する。</p> <p>②No2「人権教育」、No5「学習指導」、No10「教育的ニーズ」、No13「安全教育」の4項目については、「とても思う」の回答率が高かった。日々の教育活動において、児童生徒理解的確な教育的ニーズの把握、個々の実態に応じた指導・支援の充実がなされている結果であると考察する。</p> <p>③No6「ICT活用」については、「少し思う」の回答率に着目する必要がある。各学部の実態に応じ、ICT活用による教育実践の充実が求められ、授業参観等を通じ、ICT活用による教育実践について保護者が実感できる場面を設定し、次年度以降、改善に取り組むことが求められる。</p>
80%以下	該当項目なし
その他考察	<p>①まず、特筆すべきことは、回答率の低さである。今年度はORコードによる回答のみに限定したため、回答率の低さに繋がってしまった点を反省し、次年度は改善策を講ずる必要がある。その方法として、回答方法をORだけでなく、紙面回答を実施すること、あるいは、授業参観日や保護者面談期間と学校評価実施期間を重ねる等の工夫を講ずる。</p> <p>②保護者からのコメントとして、「電子連絡帳の導入」についての要望が寄せられている。次年度、電子連絡帳の導入に向けて検討しているところである。費用対効果を含め、総合的に検討・判断します。</p> <p>③「AI活用」についてもコメントが寄せられていた。学校としては国や県教委のガイドラインに則って、教育実践において安全で効果的に活用できるように環境作りに取り組んで行く必要がある。</p>